

大谷氏、千葉は沖本博氏と主に富士塚が多く存在する三都県の富士信仰の実態が本書によって初めて体系化されました。

岩科氏の没後、平野氏は富士信仰研究会を創立されます。惜しくも急逝されますが、岡田氏、大谷氏、梅沢氏、中嶋氏によってその遺志は引き継がれました。また、不二道に関する研究では、岡田氏と梅沢氏、新宿区の富士講では小川氏、房総石仏の会会長の沖本氏、神奈川の富士講は大谷氏、前述の米寿には不参加でしたが、水戸藩士の富士登山に関する研究では秋山高志氏の諸氏が業績を残されています。後継者を育成の面でも岩科氏は大きな業績を残されました。

◆日本常民文化研究所調査報告
2集富士講と富士塚―東京・神奈川― 1978年刊・同4集 富士講と富士塚―東京・埼玉・千葉・神奈川― 1979年刊 入手困難。

← 現在も入手可能な刊行物。
◆富士信仰と富士講 平野榮次著作集1 岩田書院 8900円＋税
◆報徳と不二孝仲間 岡田博岩田書院 5900円＋税

聖地巡拝③「富士八海」



角行藤仙師が、実際に御修行された各地の水辺を御霊地として巡礼されるものです。富士山麓を巡る「内八海」、関東から、近畿までの広大な地域を巡る「外八海」、忍野村にある「忍野八海」と、規模は様々ですが、いずれも八大竜王の祀られた霊地で水垢離をとり、開祖角行様の御威徳を偲ぶ御修行だったようです。

秋季報元祭で、御参拝の方から、太祠境内の八海龍神宮のことで、質問をいただきました。そこで、今回は、このお宮とも御縁の深い「八海」を二回に分けて、案内したいと思います。

「八海」とは、富士講元祖長谷川

「内八海」は先年、斉藤義次師が、御修行を復活されたことが報道されました。斉藤師は二日間の御修行とのことでしたが、昔は、一週間ほどの時間を要しました。それぞれの海(湖)お祀りされる龍神様は(諸説ありますが)次の通りです。

- 一番 御仙水・御手洗之龍神
二番 山中之湖水・作薬之龍神

三番 明見之湖水・足民之龍神
四番 河口之湖水・水口龍神
五番 西之湖・青木之龍神
六番 精進之湖水・出世之龍神
七番 本栖之湖水・古根龍神
八番 四尾連之湖水・尾崎之龍神
角行尊師が御修行されたと伝えられる八海は、富士五湖に一番、三番、八番を加えたものです。一番は、「須戸湖」でしたが、後に泉端に改められました。現在は、池自体が耕地になっています。八番の四尾連湖も、当初は箱根の芦ノ湖だったようです。この変更は、より巡拝しやすくするための工夫だったのかもしれませんが。三番の明見湖は、富士吉田の「蓮池」として知られています。八月の第一日曜には、明見竜王大祭が開かれるとのこと。



戦前の須戸湖(浮島) <現静岡県富士市>



1 泉瑞



2 山中湖



3 明見湖



4 河口湖



5 西湖



6 精進湖



7 本栖湖



8 志比礼湖

